

雪の降る夜に

【登場人物表】

飛田望 (32) 無職

氷堂舌 (36) 借金取り

八木沢みつる (48) ファミリーレスト

ランの店長

愛田もも (18) ファミリーレストランの

店員

○ファミリーストラン『マスト』・外観（夜）

国道沿いの平屋の店舗。「ファミリーストラン『マスト』」の横文字プレート。
雪が降っている。

○同・店内（夜）

ロングTシャツを1枚来ている飛田望（32）と、分厚いコートにマフラーをした氷堂舌（36）が向かい合って座っている。飛田の前には水、氷堂はココアをフーフーしながら飲む。

飛田「……（小声で）ません」

氷堂「さむっ」

飛田「……（小声で）いません」

氷堂「あのさあ、こんな日のこんな時間、誰もいないんだから、大声出せば？」

飛田が見回すと店内には誰もおらず、店内時計は0時。緩やかな音楽と共にロボットが料理を運んでくる。

氷堂「ほら、店員すらない」

顎先をロボットの方にやる氷堂。ハツとし、ロボットに駆け寄りコインスプを取り、氷堂の前に置く飛田。氷堂、スプーンですくったコインスプをフー冷ましながら、飲み始める。

氷堂「あ、でもここで徳積んでも借金減らないよ」

飛田「……ですよ」

突然、店内が暗くなる。

氷堂「お？」

店の奥から、レストランの制服を着た八木沢みつる（48）と愛田もも（18）が出てくる。

八木沢「わ！こっちもだ」

氷堂「あんた、ちよっとこれどうなってるの？」

八木沢「お客様、申し訳ありません。バックヤードもすべて真っ暗になってしまってます」

氷堂「ほら、あれ、ブレーカーだろ。落ちたんだらうよ」

八木沢「あ、さようでございますね！少々お待ちを」

バックヤードに戻る八木沢。お辞儀をして、八木沢の後を追うもも。

飛田「あの」

氷堂「あん？」

飛田「これ、ほんとにブレーカーでしようか？」

氷堂「うちもよく落ちんだよ」

氷堂がライターでタバコに火をつけようとするがつかない。

飛田「でも、あれ」

飛田につられ、氷堂が外に目をやる。辺りの民家や店々にも電気がついていない。

氷堂「おん？」

八木沢が席に戻ってくる。

八木沢「停電ですッ！」

同時に天井の照明を見上げる飛田と氷堂。

×
×
×

○同・入口外（夜）

氷堂が降る雪に手をかざしている。雪の量や風の強さがどんどん増し、氷堂の顔に打ちつける。

○同・店内（夜）

氷堂がスマホを見ながら店内に戻ってくる。

氷堂「ここら一帯停電だな」

飛田「まじですか。電車もですか？」

氷堂「ああ……（調べて）電車もダメくさいな」

飛田「バスも？タクシーも？」

氷堂「（調べて）ああ……俺に調べさせんな」

氷堂、足で飛田の足を蹴る。

飛田「すみません、今スマホ止まってて」

氷堂、そばにいる八木沢に大声を出す。

氷堂「おい！お前！」

八木沢「はいい」

氷堂「どんどん寒くなってきてねえか？」

八木沢「空調が……止まってまして……」

氷堂「殺す気か」

着ているコートとマフラーを抱き締め
る氷堂。ももが店の奥から出てくる。

もも「これしかないみたい」

ももの左手にはろうそく、右手にはブ
ックマッチ。

八木沢「愛田くん、ナイス」

氷堂「さっさとつけろや」

もも、ブックマッチをつけようとする
が火がつかない。

もも「店長、これどうやってつけるんですか？」

八木沢が覗き込む。

八木沢「うわあ、じいちゃん使ってたやつ」

氷堂「貸せ」

氷堂がももからろうそくとブックマッ
チを奪い取る。が、同じく上手くつか

ない。

氷堂「なんだこの弱々しいマッチは」

飛田が恐る恐る氷堂に声を掛ける。

飛田「あのう」

氷堂「あん？」

飛田「僕、つけましようか」

氷堂「早くしろ」

飛田がブックマッチを受け取り、片手で難なく火をつける。ホツとした表情になる氷堂、八木沢、もも。ろうそくに火をつける飛田。

氷堂「おい、ろうそくよこせ」

八木沢「愛田君、もうろうそくない？」

もも「あと1本なら」

ももがバックヤードに戻っていく。

八木沢「お客様、わたくしも暖をとらせてい

ただいても」

氷堂「客が先だろ：：あつたけえ：：」

氷堂、柔らかな表情になるが、すぐに険しい表情に戻り、

氷堂「ろうそくつけたからって借金減らねえ

からな」

飛田、俯く。ももが急いで戻ってくる。

もも「もう1本持ってきました！」

氷堂、八木沢が振り返る。と、またしても真っ暗になる。氷堂と八木沢が振り向くと、飛田がろうそくの火を吹き消している。

氷堂「貴様」

八木沢「お客様」

仄暗い雪明りの中で、飛田が笑っている。

飛田「もう一回つけてほしいですか？」

氷堂と八木沢、飛田を見つめて。

飛田「もう一回つける代わりにお願いがあります」

× × ×

氷堂が震えて、着ているコートとマフラーを抱き締めている。八木沢は私服のコートを制服の上に着て、歯を鳴らし、ももも私服のコートを着て、隅っここの席にうずくまっている。飛田だけ立ち、一切寒そうにせず、3人を見つ

めている。

氷堂 「検討つく」

飛田 「借金チャラにしてください」

氷堂 「なめんなよ」

飛田 「じゃあ、火つけられませんか」

氷堂 「くそ」

氷堂がブックマッチを飛田から奪って火をつけようとする。が、何度やっても火をつけられない。

氷堂 「他にねえのかよ！」

ももが、かごいっばいに入ったブックマッチを見せる。

八木沢 「ここ、もともと喫茶店だったのを改

装したからでしょうかねえ」

飛田 「僕、化学部だったんです」

睨む氷堂の顔の前でマッチをつける飛田。

飛田 「モテないし、いじめられるし、なんもいいことなかったけど、役に立ちました」

飛田、氷堂の顔の前でマッチを左右に

振り、

飛田「どうします？このまま凍え死にます？」

八木沢「社長さん！」

もも「死んじゃう！」

氷堂「わーかった！わかった！借金は半分にする！半分にする！」

飛田「半分？」

氷堂「それ以上は負けられねえ」

八木沢「会長さん！もうひとこえ！」

もも「死んじゃう！」

氷堂「あーうるせえ！わーかった！わかった！なんとかする！」

飛田「全部？ちゃんと行ってください。飛田の？借金を？全？額？」

氷堂「全額チャラ！」

飛田「うーやった！」

八木沢「マツチさん！早く！」

もも「死んじゃう！」

飛田がろうそくに火を灯す。八木沢、もう1本のろうそくを出し、

八木沢「こつちもお願いします」

飛田が火をつける。1本を氷堂が、もう1本を八木沢とももが取り囲む。大事そうにろうそくを持っている氷堂が振り返り、

氷堂「なんてな。チャラなわけねえだろばーか！」

自分の体を盾に火を守る氷堂。

飛田「はあ？男に二言はないですよ！」

飛田がろうそくの火を消そうとするのを、氷堂がぐるぐる回って背中を壁にして抵抗する。

もも「ちよつと！こつちの火も消えそうなんだけど！」

八木沢「総代表！借金！チャラにして！全額！」

○同・外観（夜）

雪が降っている。店の中で飛田がろうそくの火を消す。